

2010年6月8日

アボット バスキュラー ジャパン、末梢血管疾患治療用2製品の上市を 発表

(末梢血管疾患治療用のFox sv PTA バルーンカテーテルなど発売)

次世代FoxCross PTA バルーンカテーテルおよびFox sv PTA バルーンカテーテルはアボットの末梢血管疾患治療に対する継続的なコミットメントを象徴アボット バスキュラー ジャパン株式会社(本社:東京都港区、プレジデント:ハービンダー・シン)は本日、末梢血管疾患治療用のFox sv PTA バルーンカテーテル(販売名:FOX SVPTA バルーンカテーテル)およびFoxCross PTA バルーンカテーテル、(販売名:FOXPlus PTA バルーンカテーテル)の日本国内における上市を発表しました。末梢血管疾患とは、下肢、腕、腹部の血管壁にプラークが形成され、血管の内腔が狭くなったり閉塞し、その結果血流が悪くなり、遮断される疾患です。両製品はその狭くなった末梢血管の内腔を拡張するために使用します。Fox sv PTA バルーンカテーテルは下肢の小血管治療に適しており、0.014インチもしくは0.018インチのガイドワイヤーを使用することが可能です。また、FoxCross PTAバルーンカテーテルは次世代の0.035インチのバルーンカテーテルです。

アボット バスキュラー ジャパンのプレジデントであるハービンダー・シンは、「Fox sv PTA バルーンカテーテルとFox Cross PTA バルーンカテーテルは、医師らが世界中の末梢血管疾患を有する患者様に重要な治療手段を提供するというアボットのコミットメントを示しています。私たちはこの革新的な2製品が日本の医師や患者様にお届けできることを嬉しく思います。」と述べました。

両製品は2010年の4月に開催された第3回 Japan Endovascular Treatment Conference(JET2010)のライブデモンストレーションで使用されました。

末梢血管疾患と血管形成術について

日本において末梢血管疾患を有する患者数は約300万人といわれています。末梢血管疾患の初期症状としては血圧の上昇、腎機能障害、歩行障害を伴う下肢の痛みなどが挙げられ健康面に顕著に現れます。末梢血管疾患は投薬、運動、血管形成術、ステント留置術や外科的手術により治療をすることができます。

血管形成術ではバルーンカテーテルが患者の血管から挿入され、プラークにより狭くなったり、閉塞した血管を拡張します。ステント留置術が適した病変の場合、ステントが病変部で拡張され、狭くなった血管壁を押し広げます。ステントによる治療は血管内腔を拡張し、末梢への血流を回復させます。

世界中では年間125万件以上の血管形成術による末梢血管疾患の治療が行われており、日本では年間約11万件1が実施されています。

以上

=NIKKEI NET=